

2017年7月に文部科学省から発表された「高大接続改革の実施方針等」では、受験生の「学力の3要素」について、多面的・総合的に評価する入試に転換することを目的に、①大学入試センター試験（以下、センター試験）への記述式問題の導入、②英語4技能を評価するために、大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の枠組みにおいて民間の資格・検定試験を活用、③各大学の個別選抜改革を3つの柱とし、2021年度入試に向けて準備が進められてきた。

ところが、2019年11月に、②の大学入試英語成績提供システム（以下、英語成績提供システム）の導入延期、続いて12月には①の記述式問題の導入が見送られた。今後どのように改革が進められるのか、先はまだ見通せないが、ここでは、導入延期や見送りの理由について整理するとともに、2020年1月に第1回の会議が開催された「大学入試のあり方に関する検討会議」の内容をレポートする。

## 英語の4技能評価は 2025年度入試に向けて検討

2019年11月1日の萩生田文部科学大臣の発言骨子（当時）は次の3つである。

1. 英語民間試験活用のための「大学入試英語成績提供システム」については、経済的な状況や居住している地域にかかわらず、等しく安心して試験を受けられるような配慮などの準備状況が十分ではないため、来年度からの導入を見送り、延期する。
2. 英語4技能評価は、グローバル人材の育成のため重要であり、2024年度実施の大学入試（新学習指導要領で初めて実施する入試）に向けて、文部科学大臣の下に新たに検討会議を設置し、今後1年をめどに結論を出す。
3. なお、2020年度から開始する「共通テスト」の記述式問題の導入など大学入試改革については円滑な実施に向けて万全を期する。

このように英語は、2025年度入試に向けて今後検討す

### <表>国公立大学における「大学入試英語成績提供システム」導入予定時と延期後の活用状況

#### 導入時の状況（2019.10.25公表時点）

区分	大学(全体)	国立大学	公立大学	私立大学
調査対象大学				
大学数 (a)	760	82	91	587
選抜区分数(推計) (b)	25,405	3,857	1,467	20,081
大学数 (割合 c/a)	538 70.8%	78 95.1%	78 85.7%	382 65.1%
選抜区分数 (割合 d/b)	8,038 31.6%	2,010 52.1%	635 43.3%	5,393 26.9%

・選抜区分総数(推計)(b)について、全大学のうち、国立大学95.1%、公立大学85.7%、私立大学65.1%がシステムの利用を公表していたことを踏まえ、利用大学の選抜区分数(( )内の数字)から下記のとおり全大学の選抜区分の総数を推計。  
 利用国立大学の選抜区分の総数  $(3,668) \div 95.1/100 = 3,857$   
 利用公立大学の選抜区分の総数  $(1,257) \div 85.7/100 = 1,467$   
 利用私立大学の選抜区分の総数  $(13,073) \div 65.1/100 = 20,081$

注・大学には専門職大学を含む。  
 ・選抜区分とは、学部・学科や入試方式等ごとに設定される入試を実施する上での単位。

ることが示され、英語4技能をバランスよく身につけ、伸ばすことを重視するメッセージも公表された。

また、導入延期を受けて、文部科学省が各大学に対して、2021年度入試における英語民間試験の活用の有無、活用方法等について、2019年12月13日をめどに決定の上、公表することを求めた。導入予定時と導入延期後の状況は<表>のとおりである。選抜区分数を見ると、国立大学は52.1%から13.3%、公立大は43.3%から8.1%と激減した一方、私立大は26.9%から27.7%とほとんど変わらなかった。

## 共通テストにおける記述式問題導入は見送り

英語成績提供システムの導入延期時点では実施の方向であった記述式問題も、2019年12月17日に見送りが公表された。萩生田文部科学大臣の発言骨子は次のとおりである。

1. 共通テストにおける記述式問題の導入に関して指

#### 導入延期後の状況（2020.1.8時点）

区分	大学(全体)	国立大学	公立大学	私立大学
調査回答大学				
大学数 (e)	732	82	88	562
(回答割合)	95.1%	100.0%	95.7%	94.3%
選抜区分数 (f)	26,396	4,047	1,612	20,737
大学数 (割合 g/e)	412 56.3%	47 57.3%	29 33.0%	336 59.8%
活用する選抜区分数 (h)	6,409	539	130	5,740
(割合 h/f)	24.3%	13.3%	8.1%	27.7%

・活用する選抜区分数(h)は、英語の資格・検定試験を活用する一般選抜、総合型選抜および学校推薦型選抜の数。

#### 活用大学における選抜区分別状況

区分	大学(全体)	国立大学	公立大学	私立大学
一般選抜	251	16	5	230
総合型選抜	257	28	15	214
学校推薦型選抜	271	35	24	212

・1つの大学において、複数の選抜区分で活用することから、合計数と活用大学の大学数は一致しない。

(文部科学省資料)

摘されている課題に対する検討状況について、大学入試センターから、

- ①事業者においては必要な採点者確保の目途が立っているものの、試験等による選抜、研修を経て実際の採点者が決まるのは来年の秋から冬になる
- ②元教員等の専門的知見を有する者による品質管理専門チームを設けるなどにより一定の採点精度の向上は図れるが、採点ミスの可能性は依然として残る
- ③自己採点の不一致を一定程度改善できる方策は検討したものの、大幅に改善することは困難であるなどと伺った。

2. これを受け、文部科学省としては、2021年1月実施の共通テストにおける記述式問題の導入については、受験生の不安を払拭し、安心して受験できる体制を早急に整えることは現時点において困難であり、記述式問題は実施せず、導入見送りを判断。
3. 論理的な思考力や表現力を評価する記述式問題が果たす役割は重要。各大学の個別選抜における記述式問題の積極的な活用をお願いしていく。また、文部科学大臣の下に設置する検討会議において、共通テストや各大学の個別選抜における記述式問題の在り方など大学入試における記述式の充実策についても検討。

このように英語と異なり、共通テストにおける記述式問題の導入については、いったん白紙となった。

## マーク式問題も

### 思考力、判断力、表現力を重視

結局、共通テストに関する改革は何が行われるのか。現段階で公表されている主な内容は次のとおりである。

1. マーク式問題の工夫・改善
  - ・知識の理解の質を問う問題や、思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視した出題の工夫・改善を行う。
  - ・授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等をもとに考察する場面など、学習の過程を意識した問題の場面設定を重視。
2. 英語
  - ・リスニング問題文の読み上げに一部1回読みを導

入。(センター試験ではすべて2回読み)

- ・センター試験での筆記200点・リスニング50点の配点を、筆記をリーディングとし、リーディング・リスニングともに100点に変更。

このように大学入試センターが作成する「英語」は、当初の予定通り行われる方向だ。記述式問題が導入予定だった共通テストの国語と数学については、2020年1月24日時点で試験時間や問題作成方針が公表されていない。2020年1月15日に行われた「大学入試のあり方に関する検討会議」(後述)で、大学入試センターから、出題の方向・問題作成方針について1月中をめどに公表する旨の発言があった。公表内容に注目しておきたい。

## 大学入試のあり方に関する検討会議 がスタート

「大学入試のあり方に関する検討会議」(以下、検討会議)の第1回会議が2020年1月15日に行われた。この会議の趣旨は、「英語成績提供システムおよび共通テストの国語・数学の記述式にかかる一連の経緯を踏まえ、大学入試における英語4技能の評価や記述式出題を含めた大学入試のあり方について検討を行うこと」である。あらかじめ検討事項として挙げられているものは、

1. 英語4技能評価のあり方
2. 記述式出題のあり方
3. 経済的な状況や居住地域、障害の有無等にかかわらず、安心して試験を受けられる配慮
4. その他大学入試の望ましいあり方

である。この検討会議は原則公開で行われ、議事録も原則公開される。

第1回は、委員の顔合わせとして、各委員から意見表明等が行われた。そこで確認・指摘されたこととして、議論は白紙の状態から始めるのかどうか、とはいえこれまで検討された内容はまったく踏襲しないのか、大学入試改革によって高校教育に影響を与えることの是非、経済的・地域格差について、共通テストに何を担わせるかなどが挙げられた。

今後、月に1~2回程度実施しながら約1年かけて検討し、2020年中には提言がとりまとめられる予定である。2021年夏頃には「共通テスト実施大綱に係る予定」等の通知を出す必要があるため、2025年度入試に向けて時間的な余裕がないからだ。河合塾でも今後の議論について適宜情報発信をしていく予定である。